

とくくしまはてものがたり

四季それぞれに咲く花と、
花に寄せるこころ模様



1年以上続くコロナ禍の生活でも
変わりなく巡って来る季節の風や草木の緑、
花の膨らみなど、自然の営みは
いつもにも増して私たちの心を癒やしてくれる気がします。
そんな中、県内に咲く四季の花と、
花に寄せる思いを綴った巡回パネル展に出会いました。
毎年「徳島県民文化祭分野別フェスティバル」の
共催事業でさまざまなイベントを実施してきた
徳島ペンクラブ（丁山俊彦会長、会員130名）の主催で、
会員有志が61点の作品を出展していました。
それぞれに思いのこもった花ものがたり。
いくつかをご紹介します。

注：巡回パネル展は3月28日で終了しました。

【冊子】徳島ペンクラブ発行『阿波ものがたり
〜徳島「花」ものがたり篇／徳島の歴史的建造物篇〜』
お問い合わせ先

徳島ペンクラブ事務局

（電話 090 2787 7614 鈴木）

源平うつぎ（箱根うつぎ）

名東郡佐那河内村

生後4ヶ月で頭を強打し余命一年と宣告された長男だつたが8歳まで生きのびたある日、発作転落にて半身不随となり最後の手段として徳大医学部で手術。翌日「母さん、飛行機飛んでるよ」と窓を見上げる息子。前頭葉は既に海綿質化し、眼も失明寸前であったのに視力だけは回復したのだ。遙かに飛び去った銀翼の下、大学の卯月の庭に源平うつぎが咲いていた。薄緑、白、ピンク、赤、紫と花の色が変化し、香りもよ。幾年も色と遠近をなくしていた私の視界が世界を取り戻した瞬間でもあります。

戴いた一枝が半世紀近く我が家に茂り息子も50歳を越えました。

（写真・文）野上恵子

泰山木との一生

名西郡石井町 近藤晋一郎氏宅庭

幼い頃、私の名を真似た？樹があることを知って驚いた。タイトルの木に一を運び本として、並べ替えると山本泰生になる。奇妙な親しみを持ち続けて60年余が過ぎた。

初夏にこの樹の傍らを通ると、爽やかなやさしい香りで、花径15センチぐらいの白い花を見つけることができる。大輪花と長楕円形の厚い大葉がしずかにそよぐ下で、早朝、なんどか深呼吸して出勤。すると終日、生命が漲っているのを感じたものだ。

それもあり、毎年初夏は泰山木と私が最も生きてふれあう季節である。

(写真)近藤晋一郎 (文)山本泰生



ナカガワノギク

那賀郡那賀町

地名が冠についた植物がある。その地にしか生息していないような植物あるいは品種であることが多い。ナカガワノギクもそのような花である。徳島県固有の種で余所では見られないもののような。ノギクとあるようにキク科の野生の菊である。10月下旬から12月にかけて白い花を咲かせる。この花が見られるのは、その名からもわかるように那賀川流域で、それも阿南市持井から那賀町長安口ダムあたりまでの範囲らしい。溪流沿いに生えるもので、野菊としては特に珍しい品種のようである。

(写真)喜多幸治 (文)丁山俊彦



散歩道のうつろい

徳島市福島福島橋近く

ハナミズキ(花水木)を見つけたのは、6月中旬ごろ夕暮れ時の散歩道だった。帰り道、福島橋東詰めに左に折れて少し進むと、酒蔵の駐車場に鮮やかな白があった。日が差す時刻には気づかなかった上品な白が、日暮れの川風には浮かび上がって見えるから不思議だ。

もうすぐ7月という頃に、同じハナミズキを見た。以前出会った上品さは変わらない。ただその花弁は薄つすらと茶色いペールをまとい、張りも失っていた。花言葉「永遠」のこの花がうつろいゆくのを感じるのも趣深い。

(写真)文坂井陽



白い牡丹

徳島市八万町 自宅

「熱帯夜 見るたび変わる 子の寝姿」と妻は詠む。そんな日々の中から、癌が息子たちと母を引き離しました。その時に牡丹の苗を植えました。「病む妻の帰りを待つや 庭牡丹」と詠んで、母を妻を待ち続けます。異郷の癌病棟で「空きベッド 日射しあふるる 霜の朝」を遺しました。入院の人を案じ、残された日々への不安が滲んでいます。7年目の5月に妻は私の誕生日を選んで逝きました。咲いていた牡丹も我が家では咲かなくなりました。喪に服したのでしょうか。今は、家族の胸の奥でひたすらに咲き続けています。

(写真・文)東條孝



スダチの花

勝浦郡上勝町

さわやかな香りを放つすだちの花は、純白の小さな五弁で、花詞は「純潔」です。夏の初めに青い小さな実をつけ、果汁はまだありませんが、その風味は最高です！お盆を過ぎると、露地物すだちの収穫です。4年前の夏、腱鞘炎に罹り「今年は手伝えんよ」と宣言しました。ところが収穫中の夫から「突然目が見えなくなつた」との電話。網膜剥離で緊急手術となり、約1ヶ月間の安静を言い渡されたのです。すだちは収穫が遅れると、大きくなりすぎて値が下がります。近所の方に手伝ってもらって、何とか収穫を終えることができました。今も不思議に思うことは、腱鞘炎のこの手で、20kgのコンテナを下げていたことです。

(写真・文)鈴木綾子

純白とびくは鷺草色のいん

三好市池田町 黒沢湿原

数ある白い花の中で、鷺草ほど白の似合う花は無いのでは？と思います。その繊細な花びらの形そして「鷺草」という絶妙なネーミング。四国最大の湿原と言われる黒沢湿原に、絶滅を危惧されながら楚々と咲く姿は、時を忘れて見入つてしまいます。

天然記念物に指定され、「三好市の花」でもある鷺草は、毎年地元の小中学生によって苗が植えられ、大切に育てられています。見頃は7月末～8月末。

(写真)三輪恵 (文)三輪和



コスモス畑

阿南市那賀川町休耕田



あの日、小春日の陽だまりで、コスモスは微笑んでいた。
 私は何故か嬉しくて、くくつと笑いながらシャッターを押した。
 あの日、コスモスを揺らす風は清々しかった。
 私は何故か楽しくて、ふふつと笑いながらシャッターを切った。
 そしてこの日、うす紅のコスモ스에包まれて私は、優しい私になった。

(写真・文)六田靖子

イシマササユリ

阿南市伊島町

紀伊水道に張り出す蒲生田岬の延長線上、紺碧の海に浮かぶ伊島に咲くササユリは固有種である。この島出身の今は亡き旧友の誘いで初めて訪島する連絡船内、環境大臣賞を受賞した伊島中学生達のササユリ研究を報じるポスターで知った。以後数度訪れたが、季節の違いで野に咲くササユリを目にしたのは、彼の追悼を兼ねた同窓会で本島を縦走した初夏である。叢に群生し、時にはずつと離れてただ一つ、木漏れ日を浴びて浮き立つ薄桃色のほっそりした可憐な花に、旧友の微笑みを見る思いがする。

(写真)西英勝・(文)粟谷健



アケボノツツジ

名西郡神山町砥石権現



里山散策をしていると、オンツツジ、ミツバツツジ、ヤマツツジなどいろいろな種類のツツジに遭遇するが、私が今まで見た中ではアケボノツツジが最も神秘的で、目を奪われる美しさだった。
 群生している名所としては、神山町の砥石権現がある。暖かい春をやり過ごし、少し暑くなった5月が見頃である。山肌の斜面一帯を覆って群生する薄いピンクは絶景であるが、近づいて見ると二輪一輪の美しさも神々しささえ感じられる。
 (写真・文)竹内菊世